

音楽の世界で今何が起きている??

阿部 竜之介 『Pepeの視点』

September / 8 / 2017 # 54

Trombone & Euphonium奏者の阿部竜之介(Pepe)です。

このメールマガジンでは、僕から見た今の音楽の世界で起きていること、また演奏に関するヒントなどをお届けしていきます。

またメルマガ内でもいろいろな質問に答えていこうと思っていますので、どんどん質問してきてくださいね！

INDEX

[1] 旬な話題、気になる話題

『オーディション』

[2] Pepeのひとりごと

『所作』

[3] おすすめ動画

『An history of French Tuba - Episode I "The Ophicléide" (Corbin - Teutatès, Fantaisie Mystique)』

『An history of French Tuba - Introduction (Demersseman - Fantaisie sur le désir)』

[4] 演奏のヒント！

『平らに（均等に）演奏する』

[5] 編集後記

[1] 旬な話題、気になる話題

『オーディション』

先日、自分のオーケストラのオーディションを聴く機会がありました。これまでいろいろなコンクールなどで審査などをさせていただきましたが、そういうものの中でも、オーケストラのオーディションは判断がつけやすいものだなあ、と個人的には感じています。今回のオーディションを聴いて、改めてそう感じました。

「難しい or 簡単」で言うと、もちろん簡単ではないんですよ。
そういう意味ではなく、判断がつけやすいかどうか、ということです。

何が違うのかというと、例えば、吹奏楽コンクールや学生のためのソロのコンクールなどでは、受けている人の年齢や環境などを考慮したりもします。

コンクールの審査としては、もちろんその時の演奏で判断をするわけなのですが、例えば審査表へのコメントなどでは、今後のことについて僕は書くようにもしています。

その点、オーディションやプロフェッショナルのソロのコンクールでは、そういうことを考えなくてもいいので、判断がつけやすいんです。単純に音楽演奏（表現）のことにだけ集中できるからです。

ソロのコンクールとオーディションの違いは、「目的」だと思います。ソロのコンクールでは、音楽性（もちろんテクニックも含めたもの）のみで判断をするため、全く傾向の違う演奏を同じくらいいいと判断することもあります（いい音楽とは、たとえ同じ曲だとしても一つではありません）。

だから、順位をつけないといけない場面に面した際に、悩むんです。

オーディションの場合は、「今後、オーケストラの中で一緒に演奏をやっていく」という前提の元で判断をします。

なので、いい音楽性でも自分たちのオーケストラと異なると感じる場合には判断がつけやすいんです。

ちなみに僕は、プロフェッショナルなコンクールの審査に比べて、吹奏楽コンクール（とくに中学、高校の部）のような、教育の延長線上にある音楽団体のコンクールを審査するのは、判断がものすごく難しいので正直苦手です・・・。

[2] Pepeのひとりごと

『所作』

「所作（しよさ）」というのは、人の個性を強く表すものの一つだと思います。

日常生活でのものはもちろん、音楽活動の中でも所作のきれいな人、荒い人といろいろな人がいますね。

僕が個人的に苦手なのは、楽器の置き方です（スタンドへの置き方も含む）。

すごく乱暴に楽器を扱う人というのは、ほぼ例外なく演奏での音の扱い方も乱暴だと思います。
音の扱いは音楽（楽曲）の扱い方にもつながると思うんですよね。

・・・ということは何？

逆に言うと、丁寧な音楽を作ろうと思うと、まずはそういう所作から見直すというやり方もあるのではないかと考えています。

さて、みなさんはどうですか？

いろいろなところから「いい音楽を創るため」に活動していきましょう！

[3] おすすめ動画

『An history of French Tuba - Episode I "The Ophicléide" (Corbin - Teutatès, Fantaisie Mystique)』

<https://www.youtube.com/watch?v=GBNH-RLrC94&feature=em-uploademail>

今回は、フランスの友達の一人（同じ門下です）、Corentin（Morvan氏）の演奏の動画を紹介します。

まず一つ目は、コルネット（古楽器ではないほう）とのデュオでの、オフィクレイドでの演奏です。

とてもコントロールされていて、うまい！！

吹いたことのない人にはわかりにくいかもしれませんが、これだけ音色、音程、音量をモダン楽器のようにコントロールできるっていうのは、ものすごいことなんでよ！ :D

『An history of French Tuba - Introduction (Demersseman - Fantaisie sur le désir)』

<https://www.youtube.com/watch?v=byD7k1VO1GA>

2つ目の動画は、同じCorentinのサクソルン・バスでの演奏です。

器用な人はなんでも上手に演奏できるんですね・・・。

サクソルン・バスは、基本的にはフランスでしか演奏されていない珍しい楽器です（最近フランスでも、かなりユーフォニアムが増えてきました）。

[4] 演奏のヒント！

『平らに（均等に）演奏する』

最近、メロディーを音楽的に演奏するために必要なテクニックの

一つとして、

「平らに（均等に）演奏する」

ということが、今まで感じていたよりも重要なのだなあ、と感じることがあります。

これ、どういうことかというと、どんなメロディーも音量、音質、アーティキュレーションなどすべてを均等に（平らに）演奏するってことなんです。

同じような音域でだけのメロディーならそんなに難しくはないのですが、音域が広いものだとかなり大変になってきます。

このように演奏する練習をしっかりと、どんなメロディーも平らに演奏ができるようにコントロールできるようになってくると、あとで表現の要素（音量や音色、アーティキュレーションの変化など）を取り入れても思い通りに吹けるようになってきます。 ;)

決して簡単なことではないので、まずは一つのメロディーをずっと同じ音量で吹くことから始めてみてください。

まずは、音色やアーティキュレーションは一定じゃなくてもいいです。

ここで、かなり時間がかかると思います（もちろんメロディーによって難易度は変わってきますが）。

簡単には諦めないで、ここでしっかり時間をかけて、かつこだわって取り組むと、あとが面白いように簡単になってくると思います。 ;)

「もっとここをきれいに歌いたい！」 「もっと流れるようなメロディーにしたい！」 「もっと表情豊かな演奏がしたい！」 と思っている人は、ぜひやってみてくださいね～！ :D

編集後記

9月に入って、だいぶ「秋」を感じられる季節になってきましたね！
秋が大好きな僕は、かなり気分が上がってきています！！ :D

秋とは関係ないことなのですが（笑）、ここ数日、とっても嬉しいことを聞く機会がありました。

その一つは、今オーケストラでやっているオペラにお手伝いで来てくれているオーボエの人からでした。

彼女の知人がトロンボーンを吹いていて、その人が僕のモデルの
(僕の使っている) マウスピースを最近買ったそうなのですが、
とても吹きやすいと言ってくれていたそうなのです！ :D
ビジネスには関与していないので、正直なところ売れても売れなくても
僕は全く困らないのですが(笑)、同じマウスピースを吹いている
ってことだけで嬉しいのに、こうしてそれを気に入って喜んで
くれている、というのを聞くと、本当に嬉しくなります。 :)

また、その人は僕のブログなども見ているようで、嬉しさ倍増！！ :)
このメルマガも見ているのかなぁ？
いつか近いうちに、一緒に演奏したりお話したりする機会ができる
といいですね。 :)

阿部 竜之介(Pepe) オフィシャルウェブサイト

<http://www.pepeabe.com>

ご意見、感想、質問などはメールでどうぞ！

info@pepeabe.com

©阿部竜之介 『Pepeの視点』

のバックナンバー、配信停止はこちら

<http://www.mag2.com/m/0001601194.html>